

パメラ・シングラ

<略歴>

パメラ・シングラは、デリー大学（DU）のソーシャルワーク学部（DSW）の教授兼学部長であり、ソーシャルワーク教育、ジェンダー研究、社会政策、社会統計学を教えています。彼女は、様々なグループとの実証的研究によって人々の声を教室に届けています。このような彼女の旅路は、1992年にデリー政府によるカースト制度の最下層の作業清掃員（マニュアル・スカベンジャー）の研究から始まりました。30年以上にわたるキャリアの中で、パンチャーヤト制（地方自治制度）への女性の参加、企業界における女性の仕事の満足度、大学キャンパスの安全、自然災害、人身売買、福祉制度、共生結婚など、ソーシャルワーク実践の様々な分野について幅広く調査・発表してきました。また、カシミール地方の11,000人の警察官にソフトスキルの研修を行うなど、多様なグループのジェンダー・センシティブに取り組んできました。彼女は、デリーにおける女性の安全のための専門家パネル及びタスクフォースのメンバー、インド政府の国際養子縁組のNOCメンバー、JNUのビジターノミニー、デリー大学の留学生ホステルの最高責任者として、インド政府（GoI）に貢献しています。広く海外を往来しながら、国際会議や国内会議で研究論文を発表しており、理論と実践、学術的・知的な仕事を行政と融合させることに力を注いでいます。また、サマルカンド大学（ウズベキスタン）のソーシャルワークの国際コンサルタント、デリー大学のソーシャルワークカリキュラムの国際化のためのコアチームメンバーも務めています。

IASSW への将来構想

ソーシャルワーク教育を推進する世界的組織である IASSW を介して、不測の危機、新たなニーズ、暴力、虐待、剥奪といった現在の需要に応えるために、世界各地でソーシャルワーク教育、実践、研究を強化することが急務となっています。これらの側面は、事実や数字、ナラティブを通じて強化される必要があります。発展途上国では、剥奪され、周縁化された人々のライフストーリーを聞き取り、文書化することが必要です。これは、適切な政策、法律、地域特有の枠組みを組み立てるために重要なことです。したがって、ステークホルダーを慎重に見定め、積極的な参加を求めることが不可欠なのです。平等主義的アプローチ、正義、連帯、包摂といった平等の価値観は、SDGs アジェンダ 2030 も念頭に置きながら、世界の隅々にまで行き渡るように世界的に発信する必要があります。そして、IASSW は、以下のことを行うための優れたチャネルであることを証明することができるのです。

- COVID-19 やその他の危機をきっかけに変化する状況を念頭に置きながら、ソーシャルワークの理論、実践、研究の要素を構築する。
- 欠乏、撤退、拒絶に関する文化的および社会経済的な差異のある地域の状況に対処するために、地域・民族固有（indigenous）のモデルを構築する。

- 家族が重要な単位であり、絆と相互扶助が生存とレジリエンス構築の形態であるアジアのソーシャルワークモデルのような特定のモデル・方法を作り、既存のソーシャルワーク実践方法を再検討する。
- ジェンダー分析の枠組みを用いながら、人々の態度やジェンダーの固定観念、差別に変化をもたらし、適切な政策を組み立てるためにジェンダーレンズを使用する。
- 実践者と研究者との間で強力な活動を展開して、新たな介入領域に関する知識基盤を再考察・創造する。
- 集合的な議論を通じて、ソーシャルワークの専門分野や国際連盟がより可視化されるための仕組みを考案する。
- 地域の課題や優れた実践を普及させるためにソーシャルワークカリキュラムを国際化する。
- 現場と学术界が対等に参加しながら、ソーシャルワーク教育・研究センターのために、またデータ生成や議論、知識の普及のために、集団的に声を上げる。
- 知識の普及に向けて地域・国レベルでのベストプラクティスや成功モデルを文書化する（コロナ禍において地域の経験や実践を収集する IASSW の方針に沿っている）。
- 我々のステークホルダーを見定め、適切なコミュニティ、空間、環境構築への参画を求める。
- COVID-19 のような不測の危機的状況に対処するために、ソーシャルワーク界間でグローバルな連帯を構築し、危機に対応できるソーシャルワーカーを養成する。